

吐物処理とPPEの着脱

日時：2024年11月20日 17:45~18:45
場所：神野病院
講師：小城市民病院
感染管理特定認定看護師 永渕 智寛

- 感染対策の基礎知識
- 嘔吐処理（嘔吐症の対応）
- P P E 着脱

基本の心構え

感染対策の基本ができていれば、未知なる感染症の感染対策もある程度、自然と行えます。

また、感染対策はみんなで実施しなければ効果が得られません。

1人1人が「どうすると感染する可能性を下げられるのか」と考えることで、効果の高い感染対策が行えるようになります。

標準予防策 + ユニバーサル・マスキング

汚染・定着・感染・発症のちがいがい

汚染：微生物がその場所に存在すること

微生物を排除する対策。
⇒清掃・消毒・滅菌

定着：微生物が存在し増殖するが組織への侵入破壊はない

微生物を体内に入れない対策。
⇒標準予防策・感染経路別予防策

感染：組織内に微生物が侵入し増殖すること

発症：症状が出現する

感染の三要素

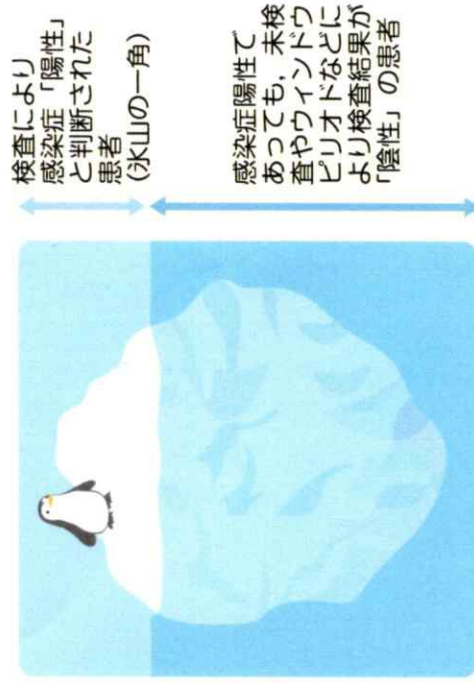
- ① **感染源**：微生物
病原性（害）と感染力が問題
- ② **感染経路**：人や物
人や物によって感染源が広がるのが問題
- ③ **感受性宿主**：微生物を受け取る人
免疫が低いと感染症を発生するのが問題

感染成立の連鎖 (Chain of infection)



看護roo！より抜粋：<https://www.kango-roo.com/sn/k/view/1797>

診断されたら感染症？



看護roo！より抜粋：<https://www.kango-roo.com/sn/k/view/1797>

標準予防策

目的：病原体の感染・伝播リスクを減少させる

全ての患者の

- ・ 血液
- ・ 汗を除く体液、分泌物、排泄物
- ・ 健全でない皮膚
- ・ 粘膜

は、**感染性があるもの**として対応すること

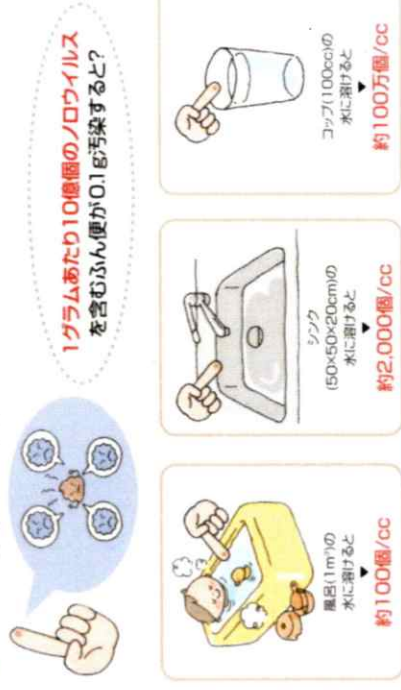
加えて、ユニバーサル・マスキング

経路別予防策の種類

1. 接触予防策 
2. 飛沫予防策 
3. 空気予防策 

すべて、標準予防策に加えて行われる。

10億個(10^9 /g)のノロウイルスの量とは



10億個(10⁹/g)のノロウイルスの量とは

1グラムあたり10億個のノロウイルスを含むふん便が0.1g汚染すると?

コップ(100cc)の水に汚れると
約100万個/cc
(約1,000個/mm³)

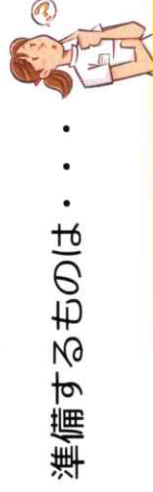
シンク(50×50×20cm)の水に汚れると
約2,000個/cc

風呂(1m)の水に汚れると
約100個/cc

10～100個で感染成立:わずかな汚染で大規模食中毒、感染症を引き起こす

嘔吐症の対応

ノロウイルス・ロタウイルスを想定して対応。



準備するものは・・・

消毒薬 **ペルシールクリーン (ハクソウ)**
 (次亜塩素酸Na 1000ppm以上
 またはペルオキシ-硫酸水素
 カリウム:@ルビスタ)
 手袋・ガウンetc・・・



突然の嘔吐

嘔吐症の対応

突然の嘔吐でも・・・

あわてないでいいように、
誰でも対処できるように、
 前もって準備しておきます。



突然の嘔吐

嘔吐症の対応

吐物処理方法

消毒薬の希釈方法
0.1% (1000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム
ハイター (5%次亜塩素酸ナトリウム) 20ml + 水1リットル (マニキュアの次亜塩素酸の希釈方法参照)

防護具
フェイスシールド付マスク、ゴーグル、エプロン、ガウン、手袋

物品
希釈消毒薬、ビニール袋、ヘーパータール

吐物処理方法

1. 患者様を退室させ、嘔吐物を拭き取る。嘔吐物の周囲を消毒し、嘔吐物をビニール袋に入れ、口を縛り閉じる。
2. 嘔吐物の周囲を消毒し、嘔吐物をビニール袋に入れ、口を縛り閉じる。
3. 嘔吐物の周囲を消毒し、嘔吐物をビニール袋に入れ、口を縛り閉じる。
4. 嘔吐物の周囲を消毒し、嘔吐物をビニール袋に入れ、口を縛り閉じる。
5. 嘔吐物の周囲を消毒し、嘔吐物をビニール袋に入れ、口を縛り閉じる。

次亜塩素酸Naは、光や熱に弱く希釈後は24時間以内に使い切ることが推奨されています。



突然の嘔吐

嘔吐症の対応

手作りの嘔吐処理キット

パルプ素材は次亜塩素酸Naを不活化させる
パルプ素材 = キッチンペーパーなど

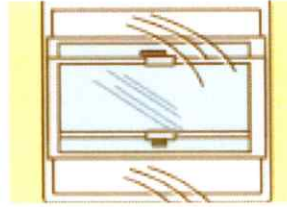


嘔吐症の対応

市販の処理キット



吐物処理をする前に



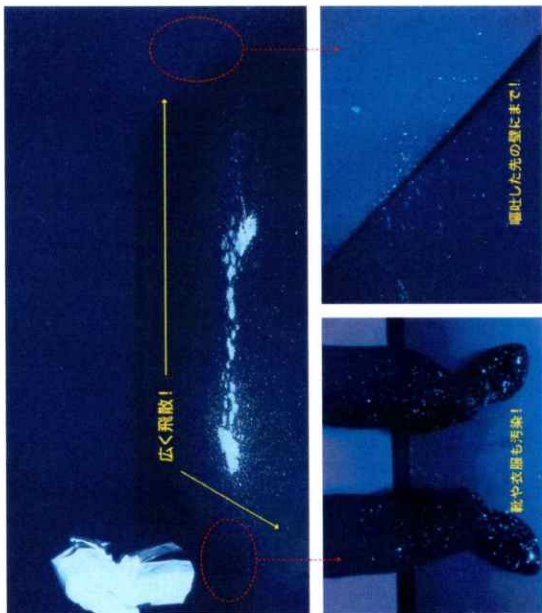
- 窓が開けられる場合には換気をしましょう
- 他の患者さんが吐物に近づかないように声をかけましょう。



はいらないでね

- **ビニール袋の口を外側に折込み**ましょう

嘔吐物の飛散範囲



ライオンハイジーン株式会社

個人用防護具の使い方 1. 基礎知識編

膨らんだ空気を押し出してしまうと



職業感染防止のための医療スタッフの防護（PPEの使用）①

○：必ず使用する △：状況により感染リスクが高くなる際に使用する

処置・ケア場面		手袋	マスク	ガウン	エプロン	ゴーグル
清潔ケア	口腔ケア	○	△		△	△
	陰部洗浄	○	△		○	△
	入浴	△			○*1	
排泄	排泄介助	○			○	
	オムツ交換（通常）	○	△*2		○	△*2
	下痢患者のオムツ交換	○	○		○	△*2
清掃	使用後の尿便器の処理	○	○	○	○	
	環境整備	○	○		○	
	血液体液で汚染場所の清掃	○			○	
	リネン交換	△	○		△	
	汚染リネンの交換	○	○	○		
吐物の処理	○	○	○	○	△	

①：口腔ケア、排泄介助、オムツ交換、尿便器の処理、環境整備、血液体液で汚染場所の清掃、リネン交換、汚染リネンの交換、吐物の処理
（注）本ガイドラインは、職業感染防止のための医療スタッフの防護（PPEの使用）に関するものであり、具体的な作業手順については、各施設の実情に応じて定めることとする。

